

海外DX人材へのアンケート調査 (ベトナム)

2021年3月
日本貿易振興機構(ジェトロ)
ホーチミン事務所



調査背景・目的



調査手法



調査結果

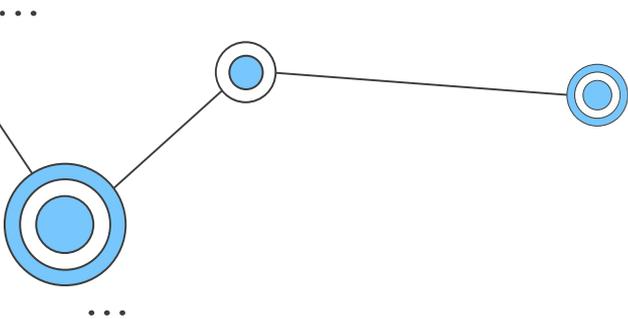
全体サマリー

3.1 - キャリア観

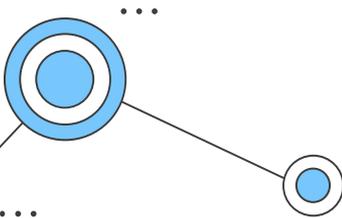
3.2 - 海外でのキャリア

3.3 - 日本(日本企業)へのイメージ

目次



01.調査背景 ・目的



調査背景

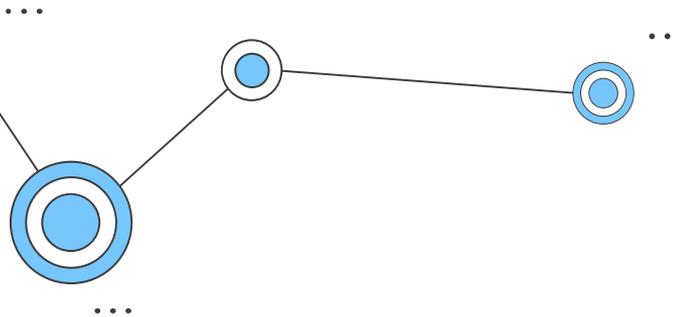
ITやデジタル技術を活用したビジネスが急速に拡大する中、自社の国際競争力や機動力強化のために海外の高度人材に関心を寄せる日本企業が増えている。しかし、当該分野の専門人材(いわゆるDX人材)については世界的にも需要が高まっているため、優秀な人材獲得をめざす日本企業には戦略的発信が欠かせない。本調査では、そうした企業活動に資するよう、日本にとって有望な人材供給先となるベトナム、タイ、インド、ロシアの4か国を対象として、各国のDX人材のキャリア観や日本観を調べた。

調査目的

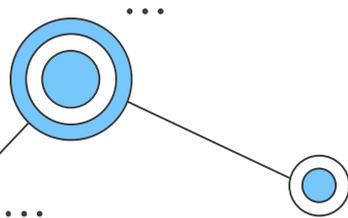
ベトナムのDX人材を対象に以下の3点を理解する。

1. キャリア観
2. 海外でのキャリア構築
3. 日本(日本企業)へのイメージ

*本調査におけるDX人材とは、データサイエンスやエンジニアリングなど、技術的な専門性を有する人材とする。



02.調査手法



調査手法

- 訪問面接調査

調査サンプル数

- 高度外国人材 30歳未満 300名

調査日程

- 2021年1月

調査エリア

- ホーチミン・ハノイ

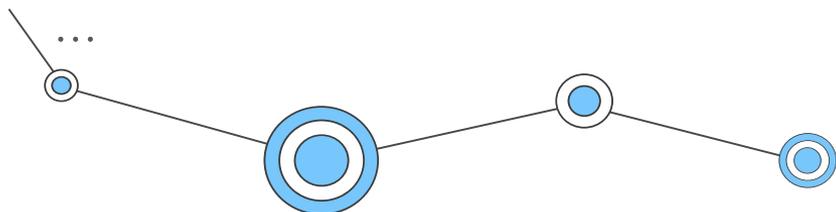
調査対象者

- 高度外国人材 30歳未満
- ベトナム国内の有力大学・大学院
 - 大学生
 - 大学院生
 - 卒業後3年未満の既卒者・就業者
- DX(Digital Transformation)関連の学部学科
 - 情報処理 -ソフトウェア工学
 - ビッグデータ解析 -AI/IoT他

調査対象者 大学リスト

大学(人数/割合)	合計		ハノイ		ホーチミン	
	N=					
	300名	100%	150名	100%	150名	100%
FPT大学	92名	30.7%	37名	24.7%	55名	36.7%
ホーチミン工科大学	57名	19.0%	-	-	57名	38.0%
ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学	38名	12.7%	-	-	38名	25.3%
郵政通信技術大学	38名	12.7%	38名	25.3%	-	-
ハノイ工科大学	38名	12.7%	38名	25.3%	-	-
ベトナム国家大学ハノイ校工科大学	37名	12.3%	37名	24.7%	-	-

専攻(人数/割合)	合計		ハノイ		ホーチミン	
	N=					
	300名	100%	150名	100%	150名	100%
ソフトウェアテクノロジー・エンジニアリング	80名	26.7%	25名	16.7%	55名	36.7%
情報テクノロジー	64名	21.3%	47名	31.3%	17名	11.3%
コンピューターエンジニアリング	46名	15.3%	13名	8.7%	33名	22.0%
情報システム	29名	9.7%	18名	12.0%	11名	7.3%
コンピューターサイエンス	27名	9.0%	11名	7.3%	16名	10.7%
サイバーセキュリティ	23名	7.7%	19名	12.7%	4名	2.7%
数学・情報科学	9名	3.0%	8名	5.3%	1名	0.7%
コンピューターネットワーク・データコミュニケーション	8名	2.7%	1名	0.7%	7名	4.7%
電子工学&電気通信	8名	2.7%	6名	4.0%	2名	1.3%
データサイエンス・AI	5名	1.7%	1名	0.7%	4名	2.7%
IoT	1名	0.3%	1名	0.7%	-	-

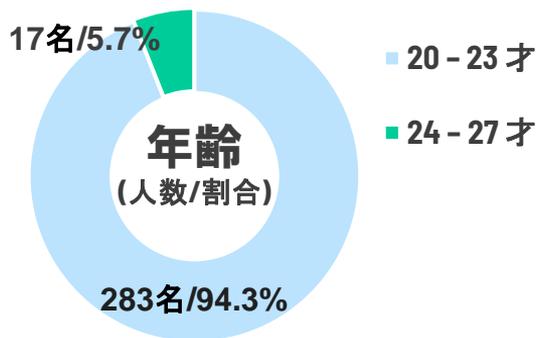


調査対象者情報

性別

(人数/割合)

女性：60名/20.0% 男性：240名/80.0%



職業(人数/割合)	合計		ハノイ		ホーチミン	
	N=	割合	人数	割合	人数	割合
学部生	283名	94.3%	135名	90.0%	148名	98.7%
卒業生	9名	3.0%	9名	6.0%	-	-
IT業界従事者	8名	2.6%	6名	4.0%	2名	1.3%

世帯収入(人数/割合)	合計		ハノイ		ホーチミン	
	N=	割合	人数	割合	人数	割合
20,000,000 VND～ (約10万円～)	82名	27.3%	49名	32.7%	33名	22.0%
14,000,000 - 19,999,999 VND (約7万円～10万円)	91名	30.3%	57名	38.0%	34名	22.7%
9,000,000 - 13,999,999 VND (約4.5万円～7万円)	99名	33.0%	41名	27.3%	58名	38.7%
4,000,000 - 8,999,999 VND (約2万円～4.5万円)	28名	9.3%	3名	2.0%	25名	16.7%
3,999,999 VND～ (～2万円)	-	-	-	-	-	-

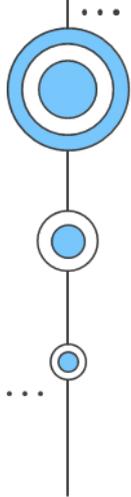
03.調査結果

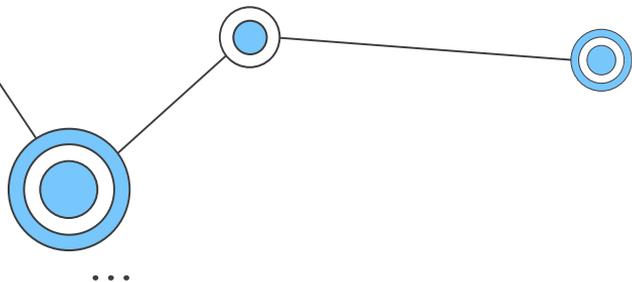
全体サマリー

3.1 - キャリア観

3.2 - 海外でのキャリア

3.3 - 日本(日本企業)へのイメージ





全体サマリー

キャリア観

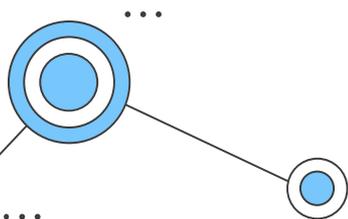
ベトナムの高度人材は、「自己成長」「望ましい収入」「安定した雇用」の理由により、「大企業」や「外資系企業」を希望している傾向である。ハノイでは「大企業」、ホーチミンでは「外資系企業」が比較的好まれる傾向がある

海外でのキャリア

海外勤務希望者は、6割以上であり、就業希望先として「日本」が圧倒的にTOP。海外勤務を望む理由は、「給与がいい」「今後のキャリアに有利」「専門分野における最新技術やトレンドへのアクセス」。一方、海外勤務を望まない理由について、ハノイは「仕事へのプレッシャー」、ホーチミンでは「文化」「海外生活全般」が不安材料となっている

日本（日本企業）へのイメージ

ベトナムの高度外国人材の海外勤務希望者からは、日本（日本企業）について既に魅力的なイメージがある。高度外国人材を確保するため、日本企業は「大学」「就職エージェント」「就職情報サイト」を積極的に活用して、ニーズのある「求人情報」「外国人材の活躍情報」「生活・文化」等について積極発信が望まれる



全体サマリー1: キャリア観

ベトナムの高度人材は、「自己成長」「望ましい収入」「安定した雇用」の理由により、「大企業」や「外資系企業」を希望している傾向である。
ハノイでは「大企業」、ホーチミンでは「外資系企業」が比較的好まれている。

仕事を選ぶ際の要因TOP3

「自己成長」「望ましい収入」「安定した雇用」

要因(加重合計)	合計	ハノイ	ホーチミン
N=	300	150	150
自己成長のチャンスがある	269	157	112
望ましい収入が得られる	238	108	130
安定した雇用	206	95	111

大学卒業後/第2キャリアで 希望する就職先の規模TOP3

「大企業」「外資系企業」「中堅・中小企業」

規模(割合)	合計	ハノイ	ホーチミン
N=	300	150	150
大企業	50.3%	52.7%	48.0%
外資系企業	28.7%	25.3%	32.0%
中堅・中小企業	9.3%	9.3%	9.3%

全体サマリー2：海外でのキャリア

海外勤務希望者は、6割以上であり、就業希望先として「日本」が圧倒的にTOP。
海外勤務を望む理由は、「給与がいい」「今後のキャリアに有利」「専門分野における最新技術やトレンドへのアクセス」。
一方、海外勤務を望まない理由について、ハノイは「仕事へのプレッシャー」、
ホーチミンでは、「文化」「海外生活全般」が不安材料となっている。

海外でのキャリア希望の有無



海外勤務希望国 TOP3

国名(加重合計)	合計	ハノイ	ホーチミン
N=	193	98	95
日本	330	168	162
シンガポール	185	91	94
アメリカ	168	85	83

海外勤務のメリット・不安TOP3

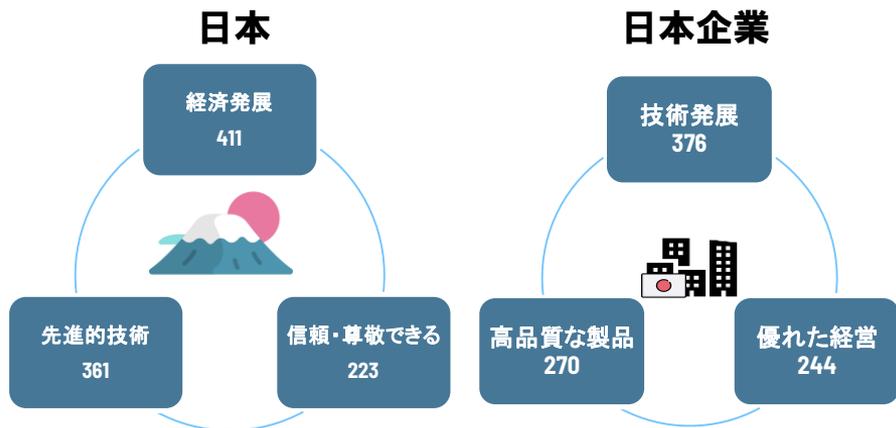
メリット(割合)	合計	ハノイ	ホーチミン
N=	193	98	95
給与がいい	30.1%	34.7%	25.3%
今後のキャリアに有利	21.8%	23.5%	20.0%
専門分野における最新技術や トレンドへのアクセス	22.3%	19.4%	25.3%

不安(割合)	合計	ハノイ	ホーチミン
N=	193	98	95
仕事のプレッシャー	21.8%	28.6%	14.7%
文化	16.6%	14.3%	18.9%
海外生活全般	15.5%	14.3%	16.6%

全体サマリー3：日本(日本企業)へのイメージ

ベトナムの高度人材の海外勤務希望者からは、日本(日本企業)について既に魅力的なイメージがある。高度人材を確保するため、日本企業は「大学」「就職エージェント」「就職情報サイト」を積極的に活用して、ニーズのある「求人情報」「外国人材の活躍情報」「生活・文化」等について積極発信が望まれる。

日本(日本企業)へのイメージTOP3



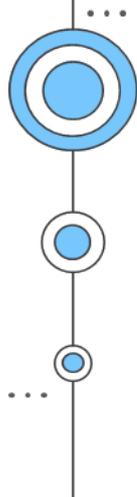
日本で働く際に必要な情報TOP3

不安(加重合計)	合計	ハノイ	ホーチミン
N=	300	150	150
生活関連情報(住居・医療・交通)	370	215	155
求人情報	295	161	134
政治(治安の安定他)	255	141	114

日本(企業)の情報入手先TOP3

入手先(加重合計)	合計	ハノイ	ホーチミン
N=	300	150	150
大学	458	194	264
就職エージェント	372	166	206
就職情報サイト	341	182	159

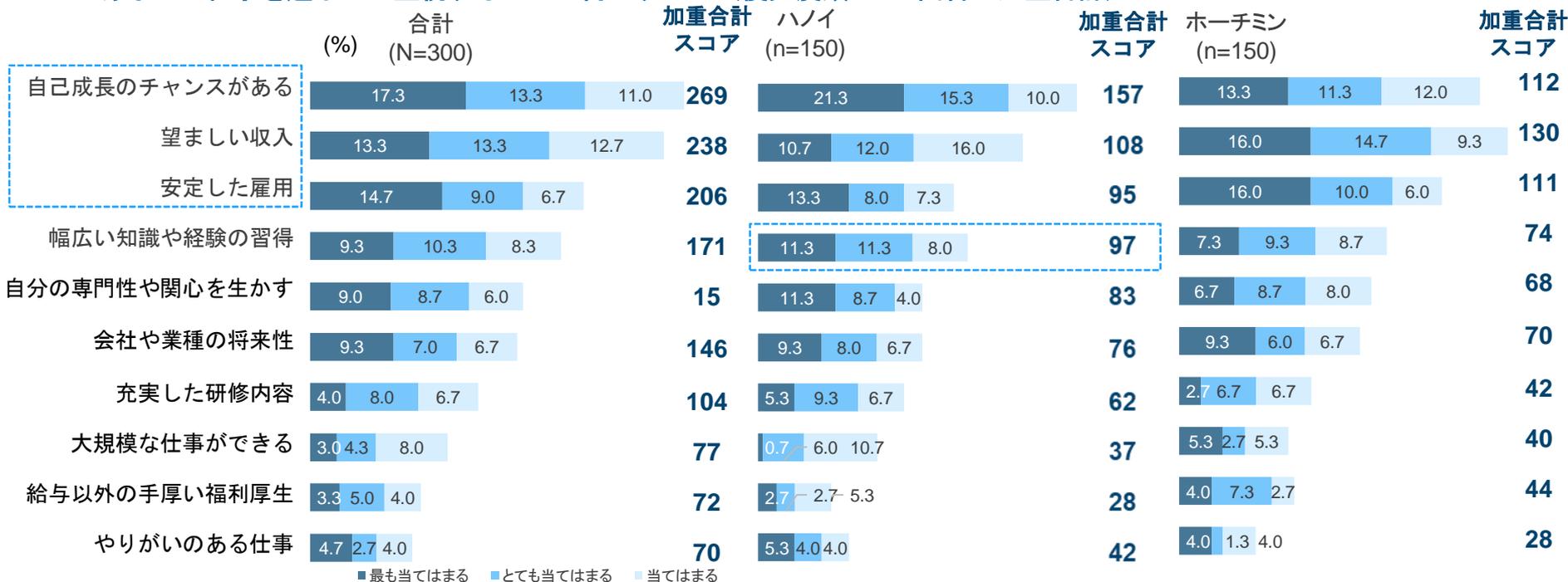
1. キャリア観



仕事を選ぶ理由

仕事を選ぶ理由は、「自己成長のチャンスがある」が最多。次いで、「望ましい収入」「安定した雇用」の順。ハノイは「幅広い知識や経験の習得」が比較的高い。

Q1: あなたが仕事を選ぶ上で重視することは何ですか？（優先度順に3つ回答で加重合計）

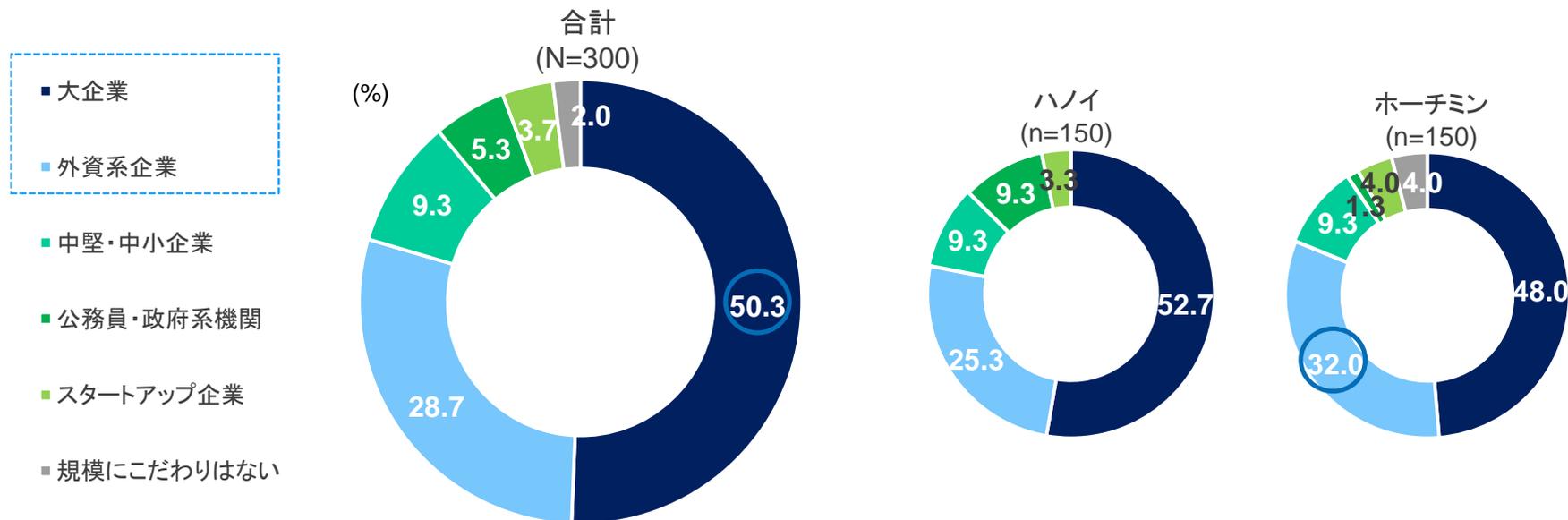


※一人につき1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして加重スコアで合算

大学卒業後/第2キャリアで希望する就職先の規模

大学卒業後/第2キャリアで希望する就職先の規模について、「大企業」を希望する学生が50%とTOP。次いで、「外資系企業」「中堅・中小企業」の順。ホーチミンでは「外資系企業」が比較的高い。

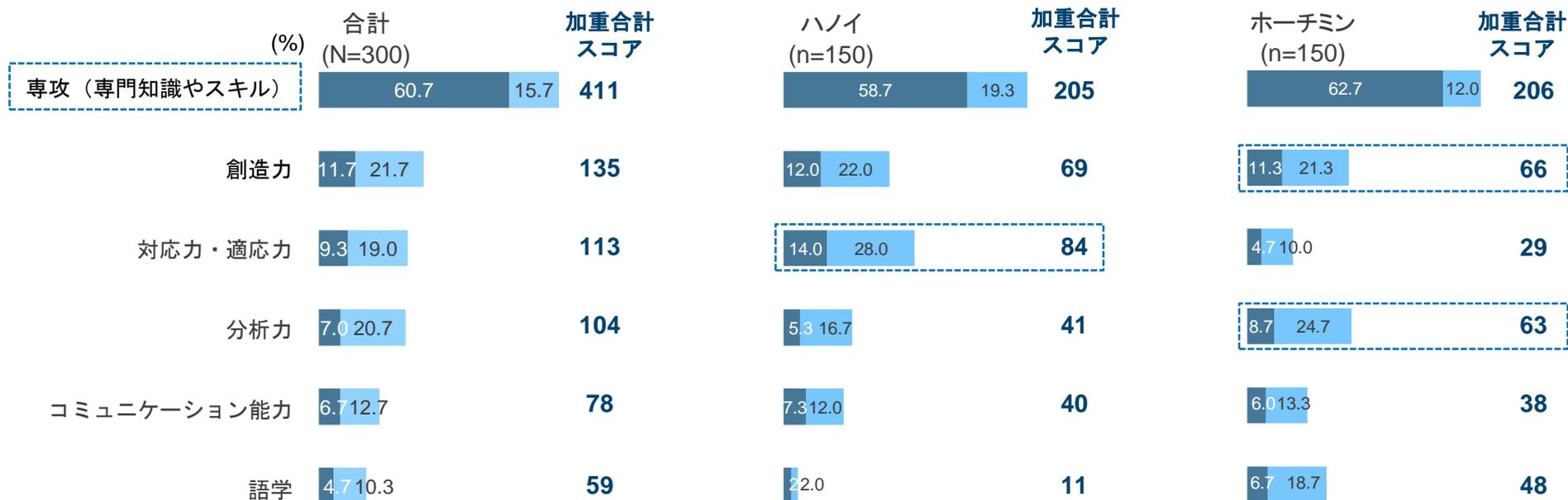
Q2. 卒業後あるいは次のキャリアで希望する就職先は項目の中でどれに近いですか？（単一回答）



自分の強み・弱み

自分の強み・弱みについて、「専攻(専門知識やスキル)」がTOP。
ハノイでは、「対応力・適応力」、ホーチミンでは「創造力」「分析力」が比較的高い。

Q3. 就職するにあたりPRしたい／生かしたい自分の強みは何ですか？（2つ回答）

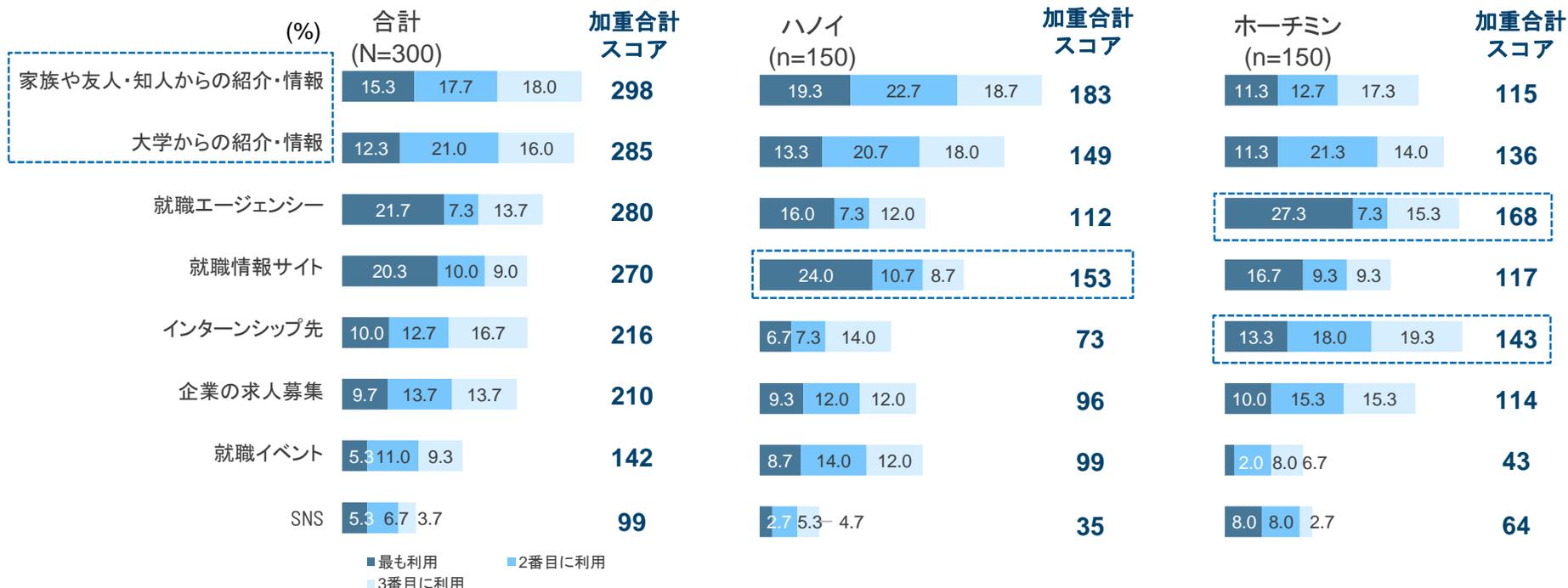


■最もアピールしたい ■2番目

就職先の見つけ方(情報源)

就職先の見つけ方(情報源)について、「家族や友人・知人からの紹介・情報」「大学からの紹介・情報」がTOP2。
ハノイでは、「就職情報サイト」が比較的高い。ホーチミンでは、「就職エージェンシー」「インターンシップ先」が比較的高い。

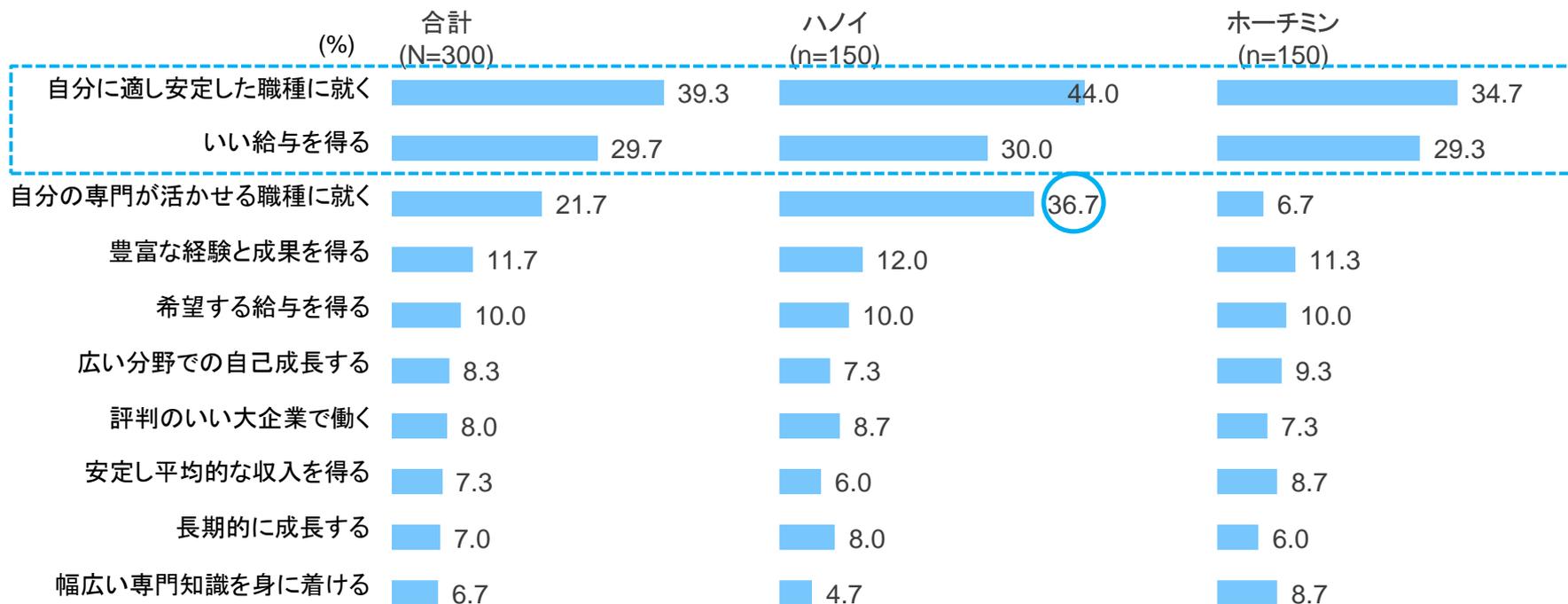
Q4. 就職先を見つける際に重視する情報源はどれですか？ (加重合計)



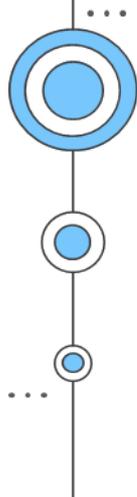
※一人につき1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして加重スコアで合算
Copyright (C) 2021 JETRO. All rights reserved.

将来のキャリア観について、「自分に適し安定した職種に就く」がTOP。「いい給与を得る」が次に続く。
ハノイは「自分の専門が活かせる職種に就く」が比較的高い。

Q5. 3~5年後の自分になりたいキャリアの姿を教えてください。(自由記述)



3. 海外でのキャリア

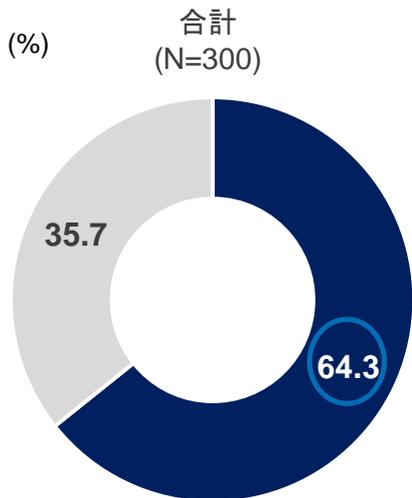


海外勤務希望の有無と理由(全体)

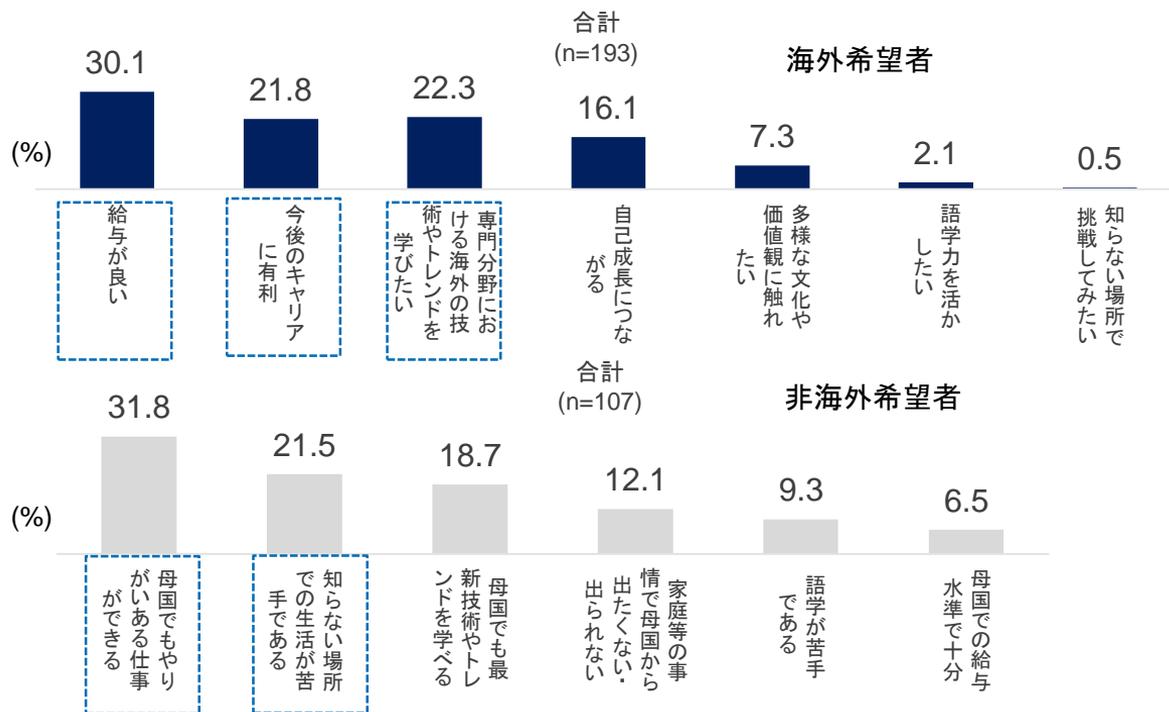
海外勤務希望の有無(全体)について、海外勤務希望者は全体の64%。

海外希望の理由は、「給与がいい」「今後のキャリアに有利」「専門分野における海外の技術やトレンドを学びたい」がTOP3。
一方、非希望の理由は、「母国でもやりがいのある仕事ができる」「知らない場所での生活が苦手である」がTOP2。

Q6あなたは海外で働いてみたいと思いますか？(単一回答)



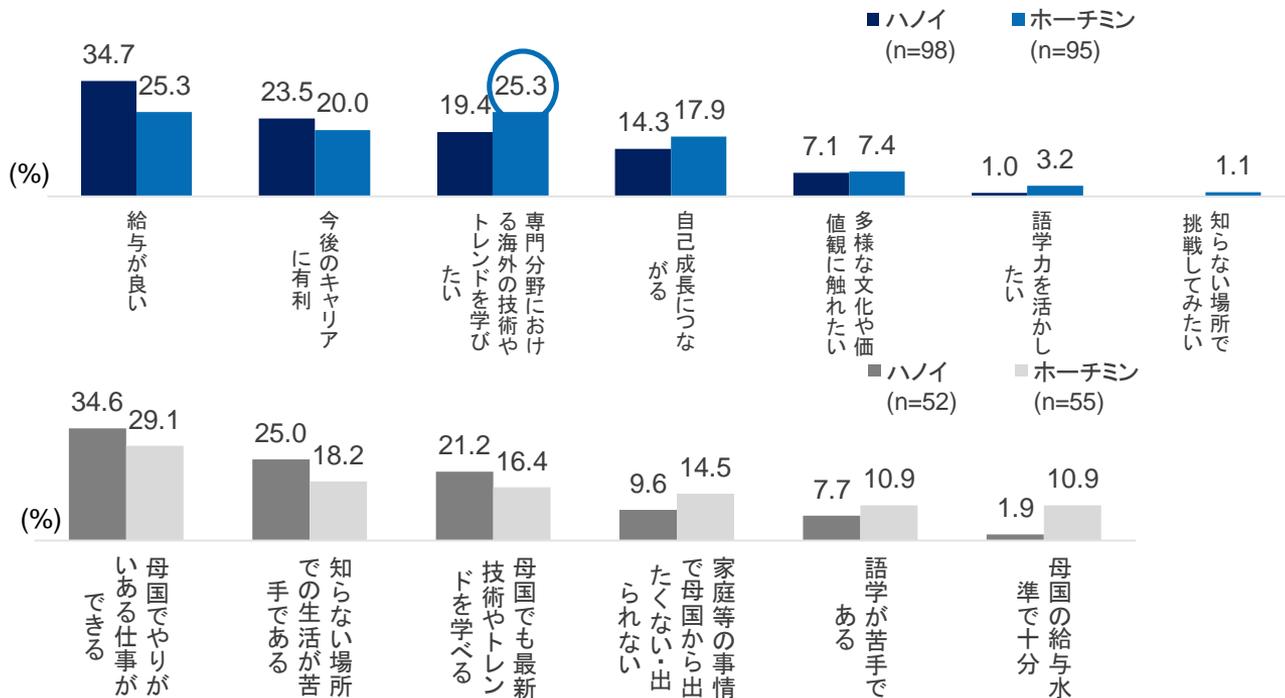
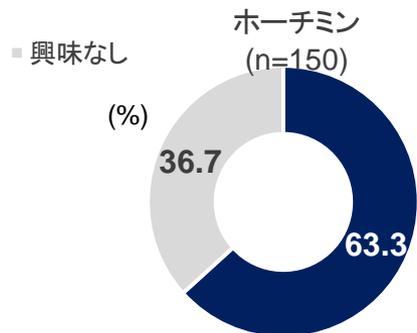
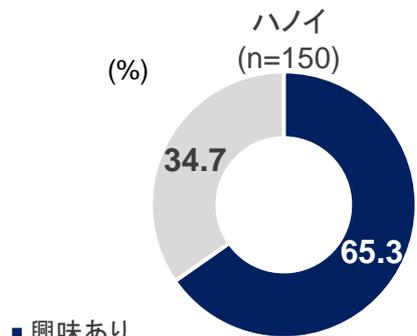
■ はい
■ いいえ



海外勤務の希望有無と理由(エリア別)

海外勤務の希望有無(エリア別)は、希望者がハノイ・ホーチミンともに60%を超える。
ホーチミンは「海外の技術やトレンドが学べる」が比較的高い。

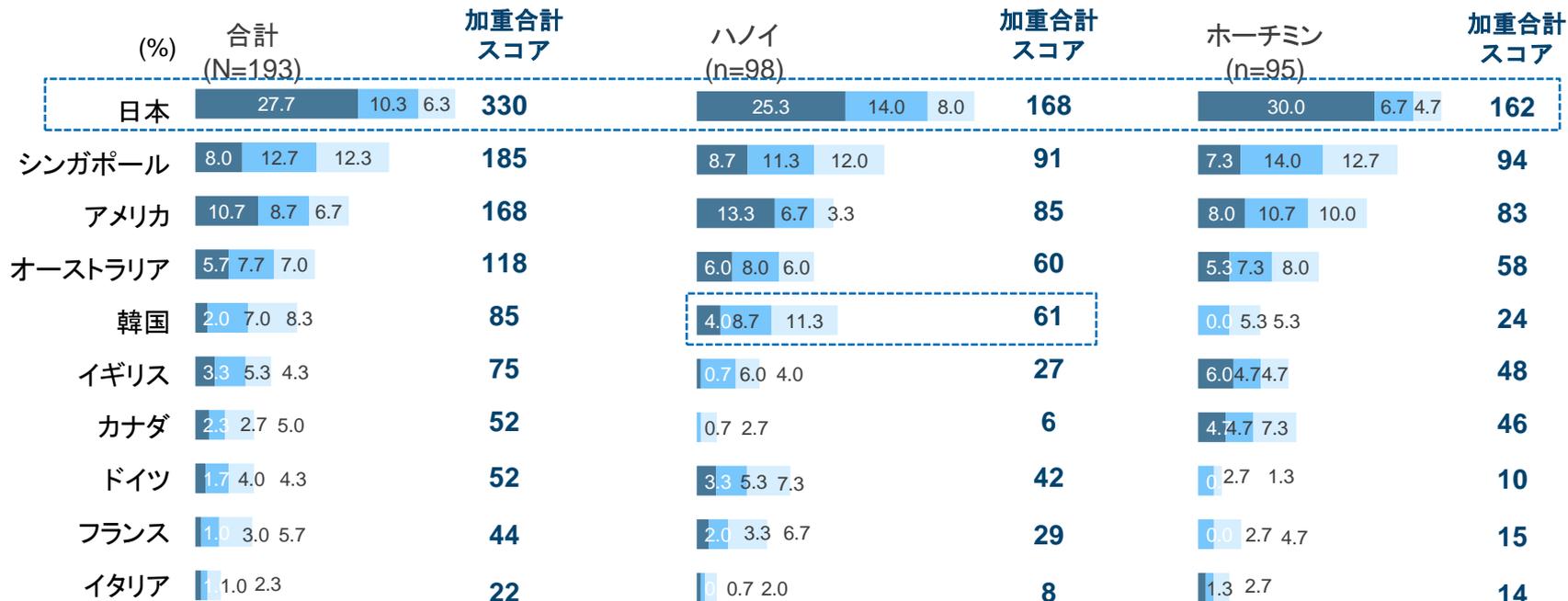
Q6. あなたは海外で働いてみたいと思いますか？理由を教えてください。(単一回答)



勤務希望国の順位

海外勤務希望者の中で、勤務希望国は「日本」が圧倒的にTOP。
次いで、「シンガポール」「アメリカ」「オーストラリア」の順。ハノイは、「韓国」を選ぶ人も比較的多い。

Q8.勤務してみたい国はどこですか？（加重合計）



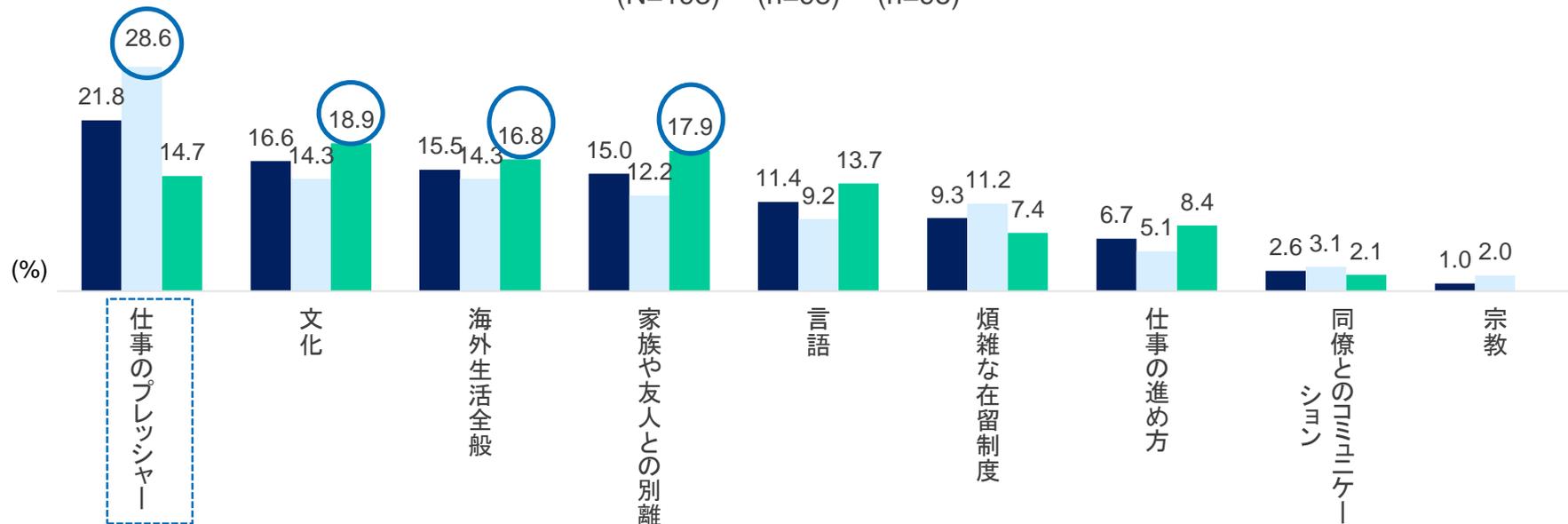
■ 第一候補 ■ 第二候補 ■ 第三候補

※一人につき1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして加重スコアで合算
Copyright (C) 2021 JETRO. All rights reserved.

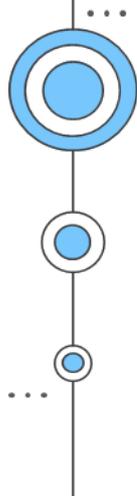
海外勤務希望者の中で、海外勤務の不安は、「仕事のプレッシャー」がTOP。特に、ハノイで高い。一方、ホーチミンは、「文化」「海外生活全般」「家族や友人との別離」が上位TOP3。

Q9. 海外勤務する場合に不安なことは何ですか？（単一回答）

■ 合計 (N=193) ■ ハノイ (n=98) ■ ホーチミン (n=95)



3. 日本企業へのイメージ

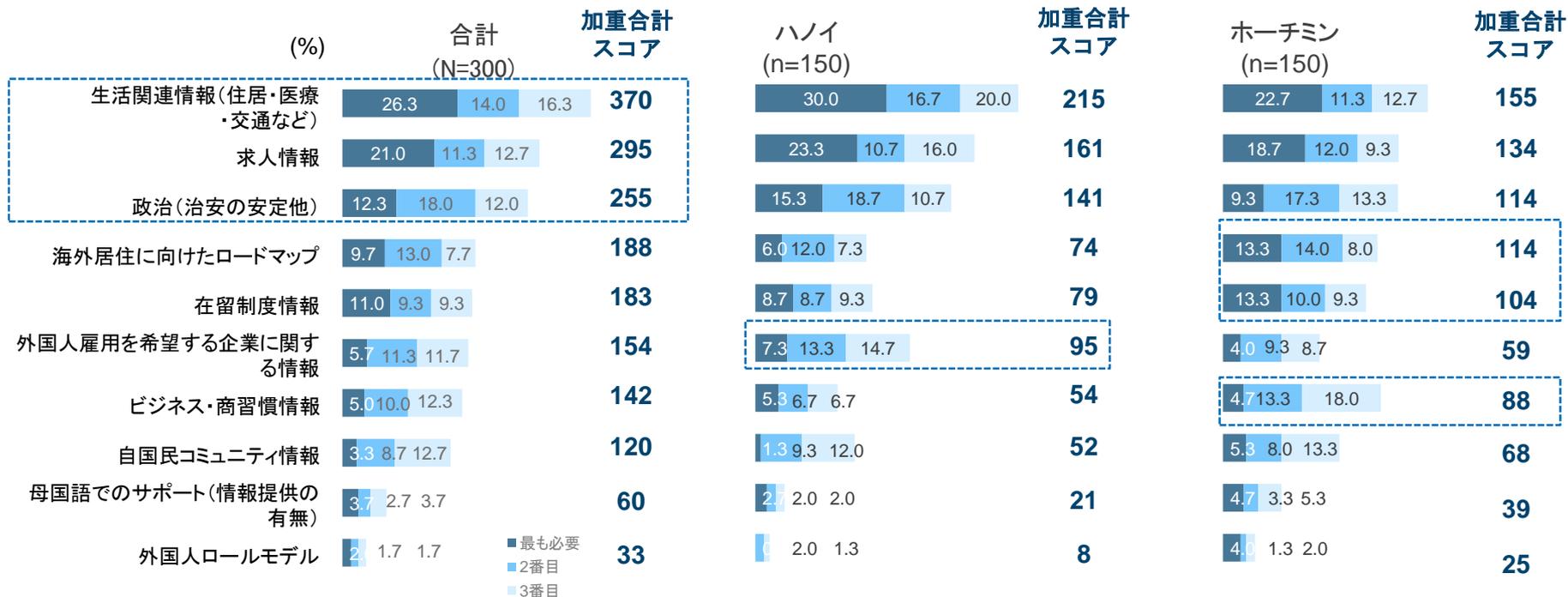


日本で働く際に必要な情報

日本で働く際に必要な情報は、「生活関連情報(住居・医療・交通など)」がTOP。次いで、「求人情報」「政治(治安の安定他)」。
ハノイは、「外国人雇用を希望する企業に関する情報」が比較的高い。

一方、ホーチミンは、「海外移住に向けたロードマップ」「在留制度情報」「ビジネス・商習慣情報」が比較的高い。

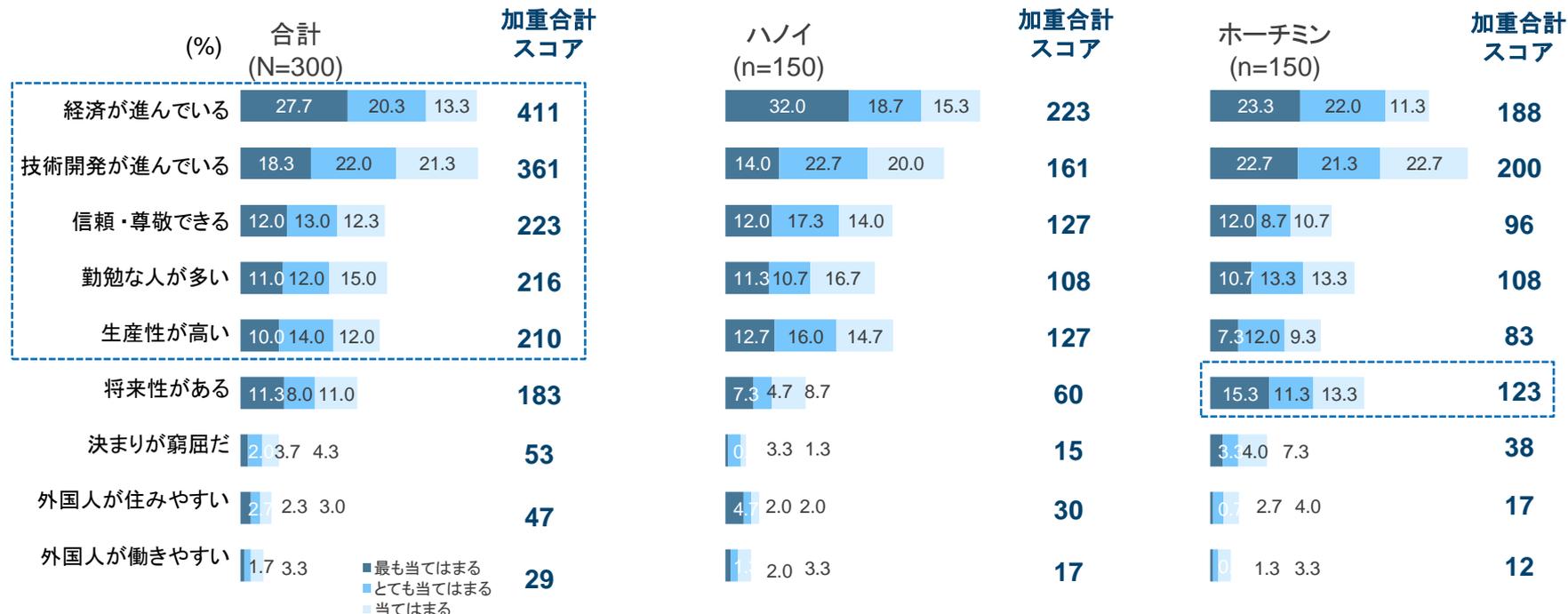
Q10. 日本を含め外国で勤務することを考える場合、どのような情報が必要ですか？(加重合計)



※一人につき1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして加重スコアで合算
Copyright (C) 2021 JETRO. All rights reserved.

日本へのイメージは、「経済が進んでいる」「技術開発が進んでいる」がTOP2。
 次いで「信頼・尊敬できる」「勤勉な人が多い」「生産性が高い」。
 ホーチミンは「将来性がある」が比較的高い。

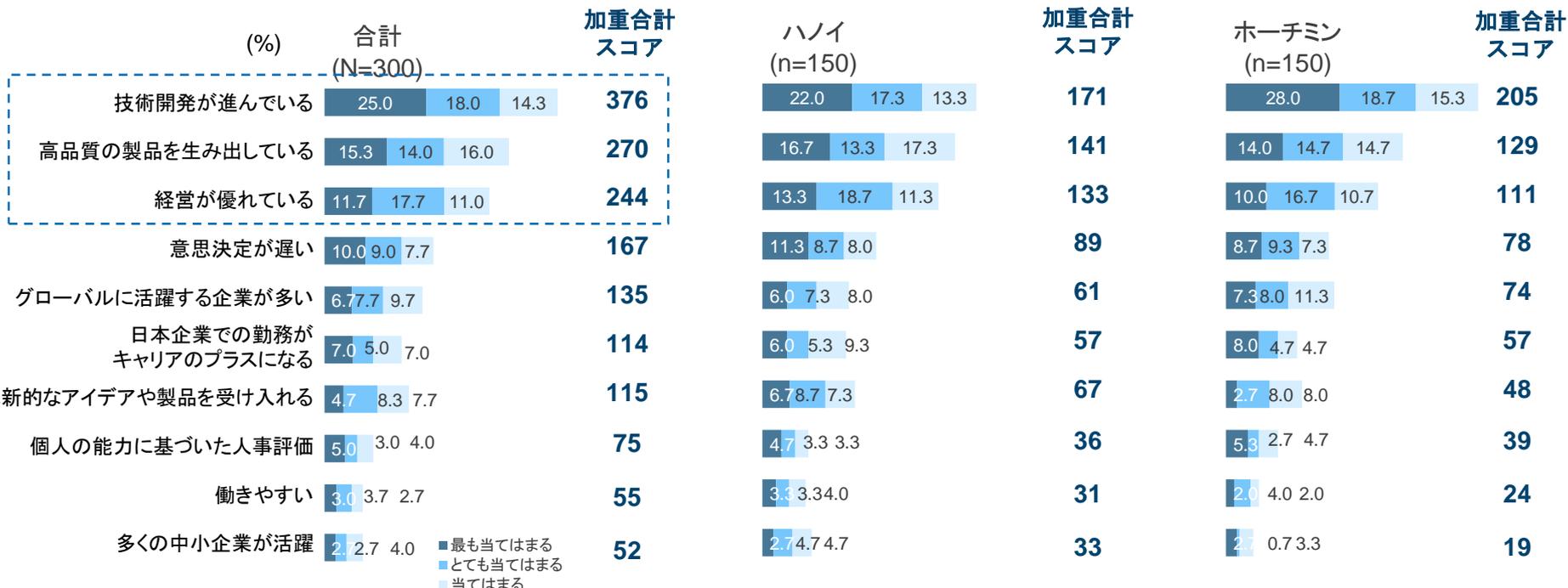
Q11. 日本へのイメージに当てはまるものはどれですか？（加重合計）



※一人につき1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして加重スコアで合算

日本企業へのイメージは、「技術開発が進んでいる」がTOP。
次いで「高品質の製品を生み出している」「経営が優れている」の順。

Q12. 日本企業・日本企業へのイメージに当てはまるものはどれですか？（加重合計）

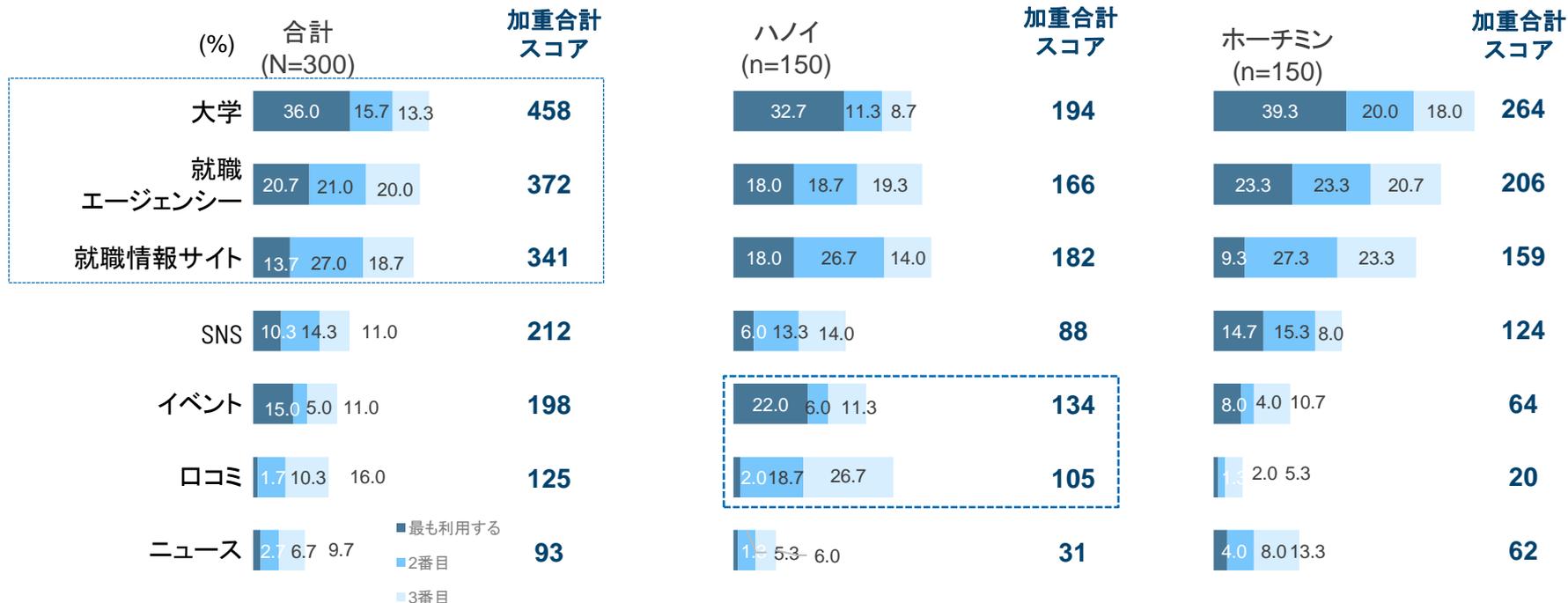


※一人につき1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして加重スコアで合算

日本(企業)に関する情報入手先

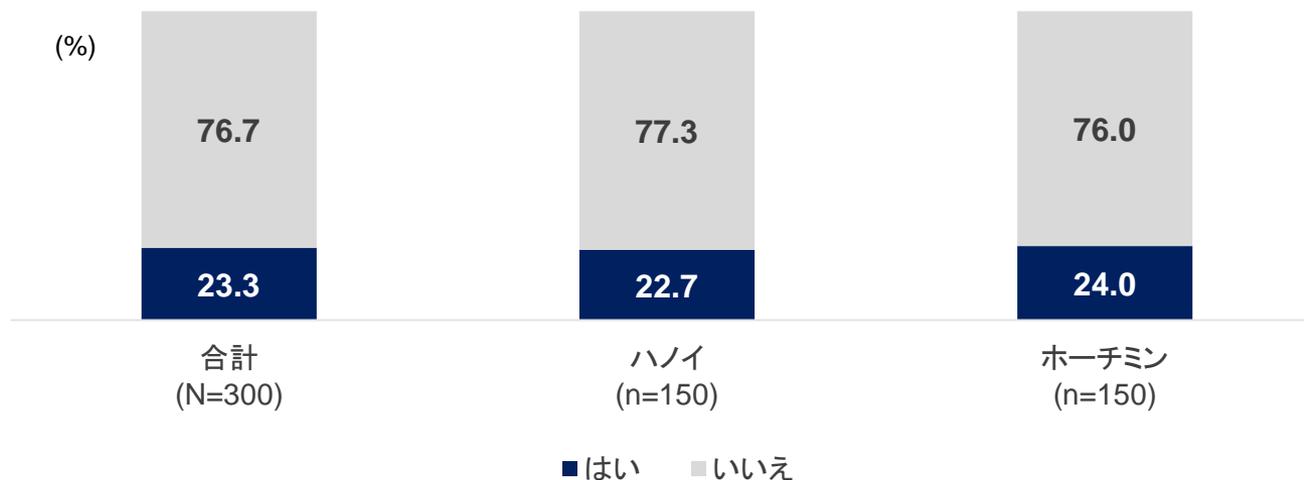
日本(企業)に関する情報入手先は、「大学」がTOP。次いで、「就職エージェンシー」「就職情報サイト」。
ハノイは、「イベント」「口コミ」が比較的多い。

Q13日本や日本企業に関して情報入手する場合、どのような手段が考えられますか？(加重合計)



日本の在留制度への認知度(就労・企業ビザ/ポイント制/永住権)は、非認知者が80%弱と高い。

Q14.日本の在留制度・取り組みを知っていましたか？(単一回答)

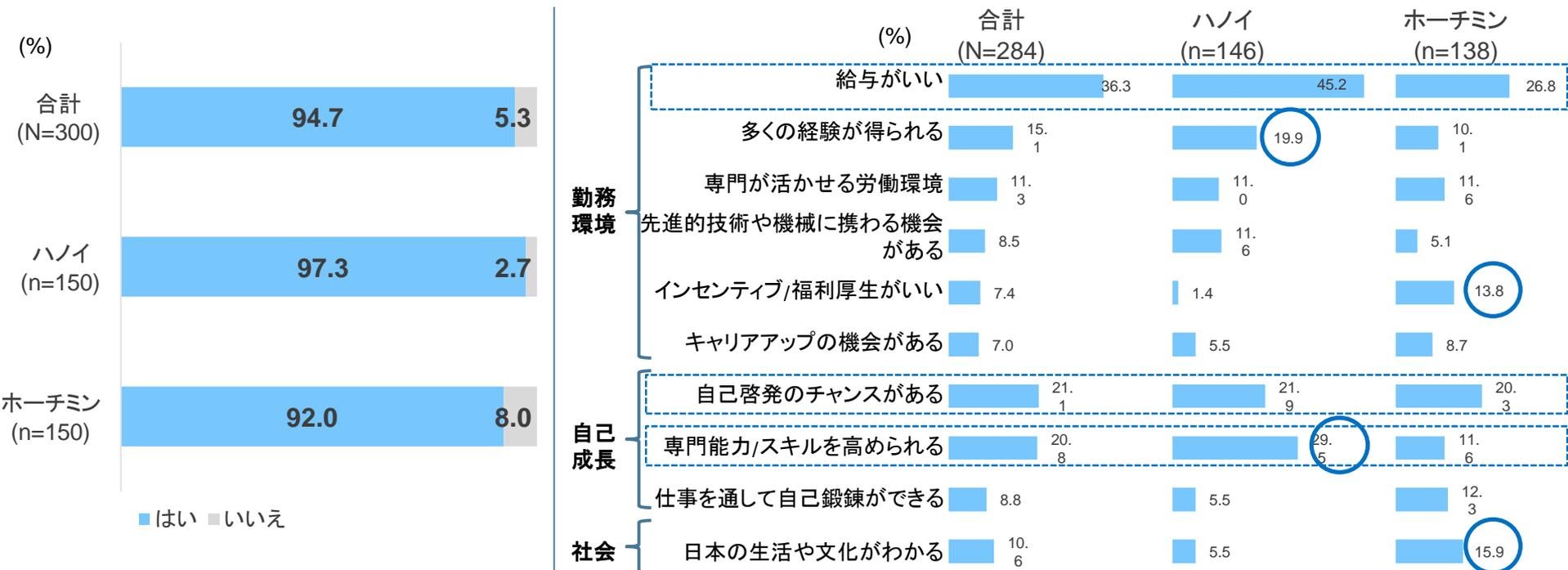


“日本は専門的な技術や能力を有する外国人材に対して、入国管理上の優遇制度を設け、外国人が日本で働きやすい環境を整備している。例えば、大学の専攻と類似する職種に就けば、最長5年(更新可能)の在留許可が付与され、条件を満たせば最短1年で永住権申請が可能な「日本版グリーンカード」などがある。”

日本企業で働く際のメリット

全体の95%が、日本(企業)で働くことはメリットと回答。理由として「給与がいい」「自己啓発のチャンスがある」「専門能力/スキルを高められる」が上位。
ハノイは、「自己啓発のチャンスがある」「多くの経験が得られる」が比較的高い。
ホーチミンは、「日本の生活や文化がわかる」「インセンティブ/福利厚生がいい」が比較的高い。

Q15.日本の会社で働いたら何かメリットがあると思いますか。(単一回答) どうしてですか?(自由記述)



JETRO

【免責条項】

本アンケート調査は、ジェトロ・ホーチミン事務所が現地の調査会社に委託して実施したものです。本アンケート調査で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本アンケート調査で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。